

佐野市・芦屋町青少年交流事業



8月22日～24日の3日間、親善都市である福岡県芦屋町の小中学生と、佐野市の小中学生との交流事業が開催されました。

この事業は、両市町が室町時代に茶釜の産地として「西の芦屋・東の天明」と並び称されたことをきっかけに、平成6年から交流を続けています。1年ごとに互いに訪問する形で行われており、今年は芦屋町から16名のみなさんが佐野市を訪れました。

参加した佐野市・芦屋町の子どもたちは、鋳物づくりやまちなか散策、佐野ブランドである「クリケット」体験や、化石発見教室、梨収穫体験、田中正造翁の勉強などを通して、佐野市の魅力に触れ、交流を深めました。

クリケット体験では、初めての球技に戸惑いながらも、お互いに声をかけながら、笑顔で汗を流しました。



Town Topics まちの話題

救急フェアを開催

9月9日の救急の日になみ、市内のショッピングセンターで第5回目となる救急フェアが開催されました。

このイベントは佐野地区広域消防組合の主催で行われ、当日は応急手当普及員の資格を有する女性消防団員の皆さんも参加。女性消防団員が買い物客に救急車の適正利用やイベントの呼びかけをするなか、会場では心肺蘇生法の講習やAEDの取り扱い実技講習が行われたほか、子どもたちが防火衣を身に着けての記念撮影会などが行われました。



心肺蘇生・AEDの講習には多くの親子連れも参加。救急隊員の説明を聞きながら、真剣な表情で取り組みました。



第25回くずう原人まつりが開催されました

8月25日・26日の両日、嘉多山公園において、真夏の佐野市の祭典、最後を飾る「くずう原人まつり」が開催されました。

オープニングデーの25日は、原人ステージでの火起こしパフォーマンスで幕が上がりました。フリーステージでは、歌やダンスなどが披露され、わんぱく広場においては、子どもたちが原人と同じくひもや棒を使い、汗だくになりながら火種作りに挑戦していました。また、夜には25周年記念ライブが開かれ、歌手の池田聡さんや中西圭三さんが熱い歌声で会場を盛り上げました。



翌26日には、佐野ブランドキャラクター「さのまる」が遊びに来たのをはじめ、「灼熱のサンシャインライブ」と題し、氷室小学校児童による「水木の田植え唄」や、常盤中学校生徒による「牧歌舞伎」などが披露されました。また、弓矢と丸太切り、火おこしのタイムを競う「原人チャレンジパーク」が行われ、観客からは大きな拍手が沸き起こっていました。

日も沈む夕方からは、和太鼓6団体による勇壮な演奏が行われ、会場を埋めた人たちは、終わりゆく夏を最後まで楽しんでいました。

注目

健康福祉

募集

催し物

お知らせ

講座

話題

第15回 越名舟唄全国大会



9月15日・16日の両日、文化会館大ホールで第15回佐野の越名舟唄全国大会が開催されました。

越名舟唄とは、かつて佐野と江戸を結んだ越名河岸で、そこを行き交う船頭たちにより、櫓や竿を操りながら口ずさんで唄われた舟唄です。

この大会には県内外から18歳から92歳の男女176名が参加。一般の部（60歳以下）、実年の部（61歳以上70歳未満）、熟年の部（71歳以上）の3つの部に分かれ歌声を競いました。

参加者の皆さんは、舟をこぐ音を再現する楽器「櫓」や尺八の伴奏に合わせて、見事な歌声を披露しました。

なお、各部門の結果、また、各優勝者で行われた総合決勝の結果は以下の通りです。

（一般の部優勝・総合決勝優勝）

飯村充代さん（さくら市）

（実年の部優勝・総合決勝2位）

渡部房子さん（筑西市）

（熟年の部優勝・総合決勝3位）

生田目義昇さん（常陸太田市）

「ゆるキャラ(R)グランプリ2012」にエントリー

さのまるへの一日一票の投票をお願いします！



市内外のイベントに出演し、大人気の市ブランドキャラクター「さのまる」。8月27日には「さのまるブログ」を開始するなど、活躍の場をさらに広がっていますが、9月15日からは「ゆるキャラ(R)グランプリ2012」にエントリーしています。

このグランプリは、全国各地のゆるキャラへの人気投票を通して、その郷土の思いを広めていくこと・触れていただくことを目的に実施されており、昨年もエントリーしたさのまるは349キャラ中20位と初出場ながらも健闘しました。佐野市の名前を全国に広めようと、今年はさらなる上位を目指し、投票を呼び掛けています。市民の皆さんも、ぜひさのまるに一日一票の投票をよろしくお願いします。

グランプリの詳細内容、また投票は、パソコン・携帯電話から下記のサイトをご覧ください。

【パソコン】 <http://yurugp.jp/>

【携帯電話】 <http://yurugp.jp/mb/>

※さのまるブログも随時更新中です

ぜひご覧ください。<http://ameblo.jp/sanomaru0225/>



得意になることを ハバツキという

物の長さや広さを表すことばに「幅」があります。またこのことばは、物以外に心の広さや豊かさを表すときにも使われるようになりました。幅のある人といえは心が広くてゆとりのある人を言います。心の広く豊かな人の行為が、はぶりをきかし勢力を伸ばすと「幅を利かせる」のように、「幅」は勢力や力（能力）を表すことばとなりました。また、そのことを自慢する方言として、「ハバにする」が使われるようになりました。

「子どもがみんなから『オゼー（頭がよい）子だね。マツサカ（とても）サカシー（賢い）子だね』などといわれるもんだから、あの奥さんはそれをハバ（自慢）にしているんだってさ」

ハバによく似た方言に、ハバツキ（得意になること）があります。誇らしく思い、得意になって話すときに使います。

「あの男は、笑わせべ（よう）と思って、みんなの前にシャシャリ（差し出がましく人前に）出チャー（出ては）、ハバツキ（得意）ンなって色話をするんだってガネ」

ハバツキは自慢する意の「ハバ」と、気持ちの「気」が結びついたもので、得意な気持ちになること（さま）、自分だけが満足しうぬぼれた気持ちになること（さま）をいいます。ハバやハバツキの使用は、中高年以上の人に多く、若い人たちはあまり使わなくなりました。

（市民記者 森下喜一）